

主催：日本財団
 共催：日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS、Billboard Live OSAKA (大阪公演)
 特別協賛：東急グループ、TikTok
 協賛：Facebook、Twitter Japan 株式会社、ヤフー株式会社、CINRA.NET、
 タイムアウト東京、渋谷キューズ、パイオニア株式会社
 字幕協力：株式会社NHKグローバルメディアサービス
 後援：イタリア大使館、スペイン大使館、デンマーク大使館、渋谷区、
 目黒区 (東京公演)、日本障害フォーラム、熊本県 (熊本公演)、熊本市 (熊本公演)
 くまもと・まち魅力向上協議会 (熊本公演)、熊本市現代美術館 (熊本公演)
 協力：SLOW LABEL熊本 (社会福祉法人 愛火の会 野々島学園) (熊本公演)
 広報協力：多胡真佐子 (大阪公演)、LONG SIX BRIDGE (熊本公演)



「True Colors Festival-超ダイバーシティ芸術祭-」は、障害・性・世代・言語・国籍などのあらゆる多様性があふれ、皆が支え合う社会を目指すパフォーミングアーツの祭典です。2019年夏〜2020年夏にかけて1年間、観て・学んで・参加できる、多彩なプロジェクトを展開します。

超ダイバーシティ芸術祭

今後のTrue Colors Festival



2月15日、16日
True Colors MUSICAL
東京建物 Brillia HALL (豊島区立芸術文化劇場)



3月5〜8日
True Colors DIALOGUE
スパイラルホール (東京・青山)
Photo:Nada Zganc



7月18日、19日
True Colors CONCERT
東京ガーデンシアター (東京・有明)

- 2月 True Colors MUSICAL
- 3月 True Colors DIALOGUE
- 4月 True Colors MIX
True Colors SIGN (仮)
- 5月 True Colors FASHION
True Colors CIRCUS
- 6月 True Colors THEATER
- 7月 True Colors CONCERT

LINE公式アカウント



友だち登録はこちらから！

True Colors FestivalファンのためのLINE公式アカウント。演目情報はもちろん、親子・高齢者・障害のある方などに向けたサポート情報や、チケットの先行予約など、フェスティバルをより深く楽しめる情報をお届けします。イベント来場ごとにためるポイントでは、オリジナルグッズや先着で2020年7月開催のコンサートチケットをプレゼント！

1月17日(金)まで、友だち年末年始大感謝祭開催中！
2月のTrue Colors MUSICAL チケットを応募してあてよう。

True Colors SNS公式アカウント



Scan this QR code
Please visit our website for details



True Colors事務局

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-22-7 道玄坂ピア3F
 TEL: 03-6455-3335 (平日10:00~18:00) FAX: 03-6455-3336
 MAIL: info@truecolors2020.jp WEB: https://truecolors2020.jp

Question 海外アーティストへのQ&A

アリーナ・ロストツカヤ
Alina Rostotskaya

(ボーカル、ロシア)



A1 色彩豊かな絨毯、または果物、野菜、香辛料などが並ぶ市場です。ポーランド、フランス、ハンガリーなどのミュージシャンたちと演奏するときにダイバーシティを感じます。それぞれが自分のバイブスとスパイスを音にのせていくとき、それぞれの文化背景、人生経験、音楽的なカリスマ性がお互いを引き立て、音楽がより深いものになります。

A2 演奏する時はできるだけ考えないようにしています。ステージ上の共演者たちの音を聴きながら音楽的な会話を介してアイデアや感情を共有します。

A3 今回が初めてなので、日本へ行くのをとても楽しみにしています。また世界を今までとは全く違う角度から見直し、そして味わうことをとても楽しみにしています。

ジョセップ・トラベル
Josep Traver

(ギター、スペイン)



A1 ダイバーシティとは私にとって体験を共有すること、友情、アイデア、音楽、そして違う視点を組み合わせることです。本当の豊かさは教育と文化の交流です。

A2 音楽を演奏する時はあまり考えないようにしています。その音楽と同化し音楽家や観客にとって魔法のように特別な瞬間を作り出したいと思っています。創造的で、流動的、そしてフレッシュでいることで、いままで到達したことのない場所を毎回目指しています。

A3 もちろん、人に出会うことですが、日本の文化、例えば現代的なものから伝統的な芸術、音楽、食べ物、彫刻、建築、ダンス、表現、演劇、そして人々の日常生活についても知ることができたらいいと思っています。

ラヴィー・トリーサク
シーサクーン
Ravee Treesaksakoon

(トランペット、タイ)



A1 文化交流です。世界中の人々が出会うために集まり、ともに過ごし、一緒に音楽を演奏します。同じジャズの演奏でもそれぞれの国に独自の音楽スタイルがあって、私は常に人々から新しいことを学びます。たとえ文化の違いがあっても常に何か共通のもので繋がることのできるのです。

A2 セッションをする時は他のバンドメンバーと音楽的な対話をしながら楽しみます。複雑なことは考えなくていいです。彼、彼女らの演奏、感情表現に耳を傾けるのです。

A3 今回は世界中の素晴らしい音楽家たちと一緒に音楽を作れるとても良い機会です。これが私のスキルを向上させ、将来の音楽のキャリアを導くような素晴らしい体験になることを期待しています。

- Q1 「ダイバーシティ」という言葉を聞いてまず思い浮かぶことは？
- Q2 演奏中にどんなことを考えていますか？
- Q3 日本に来て一番楽しみにしていることはなんですか？

ジョンノ・スウィートマン
Jonno Sweetman

(ドラム、南アフリカ)



A1 故郷です。私の故郷は究極のダイバーシティの歴史をもつ南アフリカです。私の母はスウェーデン出身、父はアフリカーンスとイングリッシュの末裔でそのルーツはドイツ語も喋るナミビアです。私たちのジャズはとてもリズムカルでゴスペルに強いルーツを持っています。そして国のトップジャズミュージシャンはクラシックの教育を経てハーモニーに造詣が深く、多様でユニークな作曲をします。

A2 私にとっての共通項は「人」です。スタイルやジャンルではなく、一緒に演奏している人と繋がるのです。音楽がノってくと熱いものがこみ上げ、自分の次に何をしなければいけないのかがわかるようになります。

A3 日本の人々に会えるのを一番楽しみにしています。

ルカ・アレマンノ
Luca Alemanno

(ベース、イタリア)



A1 お互いから学ぶ機会を与えてくれる豊かさです。私は2016年にLAに行って文化、民族、音楽へのアプローチも違う同級生たちと出会えました。アイデンティティを問われ、ようやく故郷と未知の文化への想いのバランスを保てるようになりました。

A2 記憶をたどってみると3通りです。①表面的な状態。②集中しすぎの状態。③私の先生だったテリー・リン・カリントンが言う「インプット・モード」。リアルタイムで聴いたものを自分なりに解釈して演奏したり、その場のミュージシャンに反応したり、何か新しいものが生まれる貴重な瞬間。こういう時は録音を聴いても自分だとわからないことがよくあります！

A3 パスポートを見る限り、今回が7回目になるのですが、まるで初めて行くかのように興奮しています。

サラ・エルゲティ
Sarah Elgeti

(サクソフーン、フルート、デンマーク)



A1 子供の頃の記憶。窓の前の野鳥のエサ台を私はずっと眺めていました。多種多様な鳥の羽色、ときに繊細でときに愉快な声なのに、全ての鳥が完璧に思えました。新しい曲を作るときは多様な要素を調和させることに喜びを感じます。

A2 心の底からその音楽に浸り、虜になり、そして私の楽しんでいる様子が観客に太陽の光のように注がれることを願っています。私は人々が一時でも普通の苦悩や苦痛を忘れられるように心を動かせることを目指しています。もし世界中が、メディアの力を借りて、1時間でも一緒に歌って音をつくり上げて一つになったらどうなるのだろうかとたまに考えることがあります。

A3 日本の美しい風景や建築。そして日本での演奏を楽しみにしています。

世界各地の音楽家と異才が出会うニューイヤー・ジャズコンサート



異才meetsセカイ
Directed by Takashi Matsunaga



Illustrated by DenQ

天才ピアニスト松永貴志の発案のもと、世界6カ国から招待されたミュージシャンが初めて出会う。そして、車椅子のシンガー、見えない障害のある異才ピアニスト、10歳のドラマーが世界と出会い、新しいことに挑戦する。たくさんのお出合いの積み重ねから生まれるJazzをお楽しみください。

大阪公演 2020年1月4日(土)
Billboard Live OSAKA (ビルボードライブ大阪)
東京公演 2020年1月6日(月)
Blues Alley Japan (ブルース・アレイ・ジャパン)
熊本公演 2020年1月8日(水)
CIB (キープ)



P2

松永貴志

(ピアノ)



色々な人との出会いが 幸運を呼ぶ

——音楽の道へと進んだ経緯を教えてください。

小学校6年生の頃、ジャズのライブハウスに行ったとき、ピアノを演奏している人の後ろ姿がすごくかっこよく見えたんです。それでピアノに向かうと意外と自分の手が動いて、のめり込んでいきました。ライブハウスで一曲弾かせてほしいとお願いしたり、ミュージシャンの方とコミュニケーションをとっているうちに、少しずつ輪が広がって、人前で演奏するようになりました。17歳の頃にメジャーデビューして、もう16年ほど継続して活動しています。

——音楽をやってきて心が動いた瞬間はいつですか？

出会いの場が多いのがジャズです。いろんな世代の人が音楽を通して集まり、いざ演奏が始まると、皆、同じ楽曲に集中します。そこで自分が知らない世界を発見したり、人に助けてもらったりします。僕が20歳くらいで初めてオーケストラの曲を書いたとき、もう亡くなられましたけどピアニストの羽田健太郎さんのおかげで、実際にオーケストラの方たちに演奏してもらうことになったんです。「こんな若造の曲を演奏してくれるのかな」と不安だった。そうしたら羽田さんがオーケストラの方たちの前で深々と頭を下げて「よろしくお願いします」と言ってくださった。その後ろ姿、後輩や若手を守ろうとする姿勢に感動しました。

——今の時代をどう感じていますか？

情報が溢れ過ぎて自分の小ささを感じたり、ストレスの溜まりやすい社会で、皆が小さな優しさを求めているのかなと思います。でも、色々な人と出会うことで、小さな幸せや喜びが見つかる。自分が心を開いていると絶対に相手も心を開いてくれる。そうやって人を信じるところから、何かが始まります。

——演奏中にお互いの心が開くものですか？

演奏中は『いや、こっちは心開かないよ』といった駆け引きもあって、それも楽しめます。共感したりしなかったり、個々が生かされるのもジャズ。まるで人生のようなものです。

——活動の中で、自由と不自由をどう感じていますか？

ジャズは自由と言われていますが、実はルールがあります。完全な自由というのは自分の思考の中から出てくる。それはつまり自分に支配されている感覚なのかもしれません。束縛があると「だったらこうしよう」という指標が見える。僕は逆に自由の中に不自由さを見つけて、その二極化の反対の方向に必ず答えはあると思っています。

——ディレクターとして「True Colors JAZZ」をどんなイベントにしたいですか？

一昨年、日本財団 DIVERSITY IN THE ARTSのサマースクールの講師を務め、障害のある人たちと一緒に共同生活をして最後に曲を仕上げました。普段とはまた違うジャムセッションができて、もっといろんな人たちに聴いて欲しいと思っていたので、そのチャンスももらえて嬉しく思います。今回は世界中から一流のミュージシャンを招いています。彼、彼女らが日本からの参加メンバーと同じ空間を共有することによって何かしら気づきがあると思います。新しく出会う皆さんが盛り上がり、そこに新しい発見があったらいいなと思っています。

谷折

P3

小澤綾子

(ボーカル)



あなたのままでいいんだよ、 みんな違っていいんだよ

——「筋ジスと闘い歌う」というのは？

私は筋肉がどんどんなくなる筋ジストロフィーという病気を抱えています。脚は自分で動かすことができないので一昨年から車椅子に乗って生活をしています。普段は外資系IT企業で働きながら全国で歌と公演の活動をしています。

——今の生き方に影響を与えた方がいますか？

私の病気は進行性の難病で、小学生の頃から症状があって、どこかの病院に行っても原因が分からなかった。二十歳のときに筋ジストロフィーと診断されて、病院への不信感もありました。でも、私に厳しく心から向き合ってくれた先生がいて、ビシッと言われたんです。「そうやってずっと下向いて生きてたら、もうこの先あなたに誰も近寄ってこないし、最後は一人でさみしく死ぬんだね」その時は頭にきたけど、先生をギャフンと言わせたくて、前向きにいろんなことに取り組むようになりました。海外に留学したり、ダイビングのライセンスを取って世界中の海を潜りに行ったり、チャレンジすれば人生にはたくさんの可能性があることに気づいて、どんどんいいほうに変わっていきました。いつも「あなたらしいことを探さない」と言われて、「私にしかできないことなんて何もないよ」と心の中で反抗してたんですけど。やっと私が私でいる意味とか、私が歌う意味が見つかったのかなと思います。

——シンガーとして活動を始めたきっかけは？

私と同じ病気で30年間寝たきりの生活をしていた友人との出会いです。SNSで出会って、初めは寝たきりで人生楽しいのかなと思っていたのですが、その方は、作詞、作曲をして毎日時間が足りないくらい忙しいと。ちょうど5年半ぐらい前、彼が「同じ病気のあなたにこの曲を歌ってほしい」というメッセージをくれて、それから歌うようになりました。歌で表現することに、毎回、すごく緊張しています。でも歌い始めると、楽しくてワクワクして、もう何時間でも歌っていたいと思います。

——そのエネルギーの源は何ですか？

やっぱり、今しかないということかな。私の病気はどんどん進行しているので、明日、1年後、何ができなくなるか分からない。だから、今このときをもっともっと大事に、欲張りに生きています。やりたいことは今日もう全部やりきりたい。井だったら全部乗せタイプの人生を送っています。やり方は100万通りあって、私は人から見たら不自由でも、工夫すればなんでもできると思っています。

——True Colors JAZZに参加しようと決心した理由は？

去年、いろんな個性を持った仲間が集って、松永先生に教えてもらうサマースクールがあって、そのご縁で今回声を掛けていただきました。松永先生のセッションでは自由にどうぞと言われて、すごく戸惑ったんですけど、どんな音が出てきても不正解がないという衝撃的なレッスンで、みんなと一緒に答えを見つけないがらつくっていくのがすごく楽しかったんですね。しかも今回は世界中から集まったアーティストと一緒に面白いものをつくれるんじゃないかと思って即決しました。今、Enjoy Your Difference っていうのを掲げて、歌と公演活動で全国を回ってるので、「あなたのままでいいんだよって、みんな違っていいんだよ」って、True Colors Festivalのテーマは、私の思いにぴったりだなと思います。

山折

P4

紀平凱成

(ピアノ／大阪・東京公演)



ものすごくピュアで 作為のない音を生み出す

——好きなピアニスト、作曲家、ミュージシャンはいますか？

カプースチン、レクオーナ、ラフマニノフ、ショパン、シューマン、リスト、オルフ、プロコフィエフ、チャイコフスキー、ムソルグスキー、グラナドス、シカゴ、ビリー・ジョエル、ABBA、ビートルズ、バングルス、チック・コリア。クイーン、マイケル・ジャクソン、オアシス、U2、ELP、モータウン…。

——ジャズのアーティストで好きな人は？

ハービー・ハンコック、オスカー・ピーターソン、ビル・エヴァンス。

——ジャズのどういうところが好きですか？

ジャズはブルースの感じが好き。スウィングしながらが好きだよ。

——クラシックの場合はどうですか？

ショパンの幻想的な感じが好き。リストも好き。「愛の夢」のジグザグのところ。いっぱい好きなメロディとリズムがある。

——ふだん、何をしている時が楽しいですか？

自然の中に行く時、浮かぶ時が楽しい。

——自然の中で何をするのが好きですか？

サイクリングとか、爽やかな感じが好き。あとは運動するのも好き。

——自然の中にいると曲が作れるんですか？

作れるよ。自然の中だと集中すると思った時に集中できる。森の中で爽やかな風を感じたり、海の上で激しい風を感じたり…。

——作曲するときピアノを使いますか？

パソコンを触ったり、鉛筆で楽譜を書いたり…。

——ピアノに触らなくても曲が書けちゃうの？

書けちゃうね。

——松永さんとのライブで一番楽しみにしていることは何ですか？

大阪で頑張ることが楽しい。思ったことを自由に音にしたり、アレンジしたりが楽しい。あとはあんまり喋らない方がいいかもしれない。

——お父さんにお聞きます。凱成さんの魅力は？

凱成はピアノを弾かされているのでもなく、楽譜を再現しているのでもなく、音符を楽しんでいます。だから出てくる音がものすごくピュアで作為がないんです。そこをみんなに感じてもらいたいと思っています。すごく繊細な心もあるし、18歳らしい若さ、エネルギーもあって、それをストレートに表現できるところが魅力です。ジャズは楽しそうに身体を使って弾いている。クラシックはルールがたくさんあるけど、自分が聴いてよかったと思う演奏を真似しようとするんですね。生きづらさを感じることもある一方で、自分が楽しいものを見つけてそれを自分の力で伸ばそうとしている。それは彼の一つの個性ですし、僕はすごくリスペクトしています。

谷折

P5

よよか

(ドラム／東京・熊本公演)



お客さんも歌って 盛り上がったら楽しい！

——ドラムを始めたくっかけを教えてください。

両親がバンドをやっていて、赤ちゃんの時から練習について行きました。私はいつもなぜかドラムばかり見ていたようで、それを見た両親がドラムに座らせてくれたことから始まりました。1歳の時なので覚えていません。

——ロックの聖地「Whisky a Go Go」でのライブで一番印象に残ったことを教えてください。

私が作詞作曲した日本語の曲も、ロサンゼルスの人たちが歌って盛り上がってくれてとても楽しかった！

——「ハッピー」や「自転車」など作詞作曲をされていますが、どんな風に曲や詞をつくるのですか？

突然降りてきます。

——国際的な衣料品ブランド・モンクレールの「天才は狂気から生まれる」というキャンペーンに参加して面白かったこと、感じたことは何ですか？

ニューヨークがすごく楽しかったのと、撮影が面白かった！

——シンディ・ローバーさんと演奏して楽しかったことは何ですか？

全部！

黒田卓也

(トランペット／大阪公演)



今回のイベントを通じて 色々感じてみたい

——「ダイバーシティ」という言葉を聞いてまず思い浮かぶことは？

ダイバーシティについては恥ずかしながらあまり馴染みがなかったのですが、今回のイベントを通じて色々感じてみたいと思っています。

——演奏中にどんなことを考えていますか？

演奏中は、できる限り何も考えないように心がけています。日々の研鑽が純粋に表現として現れるように心がけています。

——日本に来て一番楽しみにしていることはなんですか？

今回のイベントはダイバーシティに触れるということも初めてですし、同郷の松永くんとの共演も非常に楽しみにしています。

谷折

山折

谷折